

No

21

ひらがなの読み書きができ、自分で本を選んで読もうとする。

…ものとかかわり…

文字を書こう

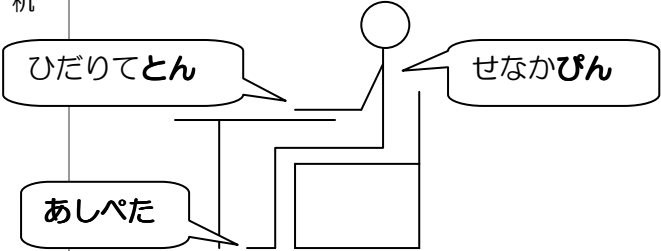
鉛筆を正しく持って書く

4月

☆ 視点に関わる就学前の状況 ☆

- ・ 保育園や幼稚園での絵本の読み聞かせや絵本の貸し出し、施設内掲示物の文字に対する興味関心の高まりから、文字に対する抵抗がなくなっている子どもが多い。また、絵を描いたりぬり絵をしたりするために、クレヨンやマジックなどの筆記用具を使う経験をしている。
- ・ 年齢にあった遊びを重ね、握る・手首を回す・指先でつまむ・箸を持つ等の経験をしてきている。（これが、鉛筆を持つための前段階になる。）
- ・ 入学前の説明会等で鉛筆の持ち方の図を配布し、家庭での働きかけを促す学校もある。

☆ 接続期の状況（国語科の時間～） ☆

指 導 内 容	子どもの姿・子ども同士のかかわり
<p>正しい鉛筆の持ち方・・・入学式2・3日後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書写の教科書に示される写真を参考に、足を床にしっかりつけ、背骨を伸ばして椅子に腰掛け、左手（利き手の反対）をノートに乗せる正しい姿勢を全体で確認する。 ・ 人差し指の位置を確認しながら（人差し指は親指より下）、正しい鉛筆の持ち方を確認する。箸の持ち方と関連させ、正しい持ち方に近づける。（箸を正しく持ち、下の1本を取る。） ・ 現在市内の小学校では2Bの三角鉛筆を使用しているところが多い。筆圧が弱い子どもたちにとってHBは芯が硬すぎてきちんと書くことができないからである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あしぺたぴんとん」だと格好がいいね。 ・ 親指が立っているとだめだね。 ・ 箸と鉛筆の持ち方は、似ているんだね。 ・ 目に近づけすぎないようにしよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐな線や丸、ぎざぎざ、くるくるなど線をなぞる。 ・ 手首を使わず指だけで鉛筆を扱うようにする。 ・ 2本がけで鉛筆を持っている子ども、強く握りすぎていた子どもには、正しい持ち方になるよう、机間を回りながら個別に指導する。 	
<p>ひらがなの練習・・・入学2週目ごろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがなは、正しい筆順で美しく整えて書くことができるよう、1日1文字を目安に学習を進める。 ・ 教科書で学習した順にドリル等を用いて練習することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1画1画丁寧に書こう。 ・ 正しい筆順で落ち着いて書こう。

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

鉛筆の持ち方やひらがなの指導は小学校入学後の内容であるが、幼児期に関心を示し、すでに読み書きができるようになって入学してくる子どももある。しかし個人差が大きいので、学校では直線や丸、ぎざぎざ、くるくる等のかたちをたくさん書き、書くことへの抵抗を緩和することから始めて、徐々に正しい鉛筆の持ち方や姿勢を意識させ、教師が確認するようにしている。